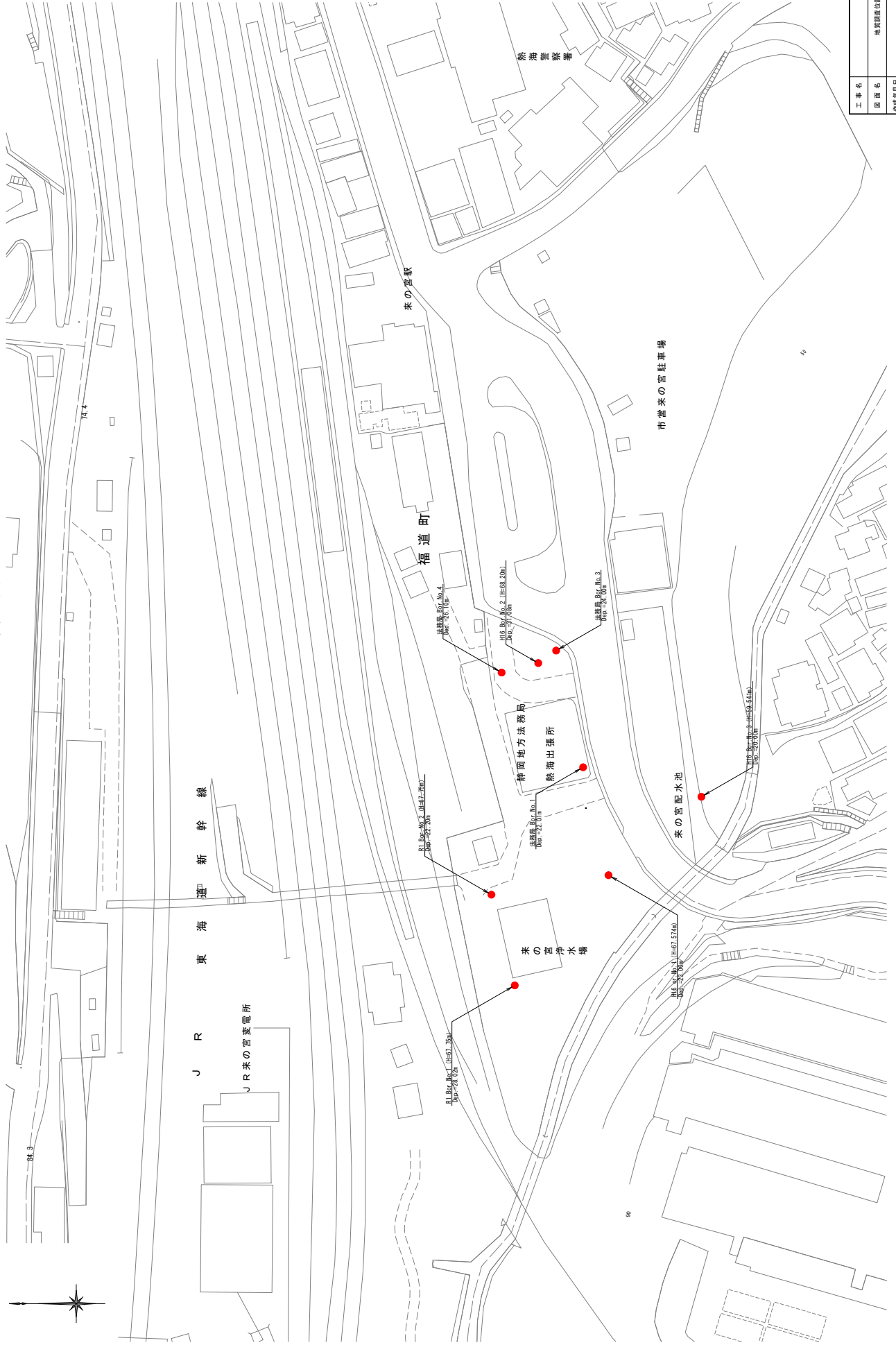


別紙 2 (土質資料)

地質調査位置図(周辺)

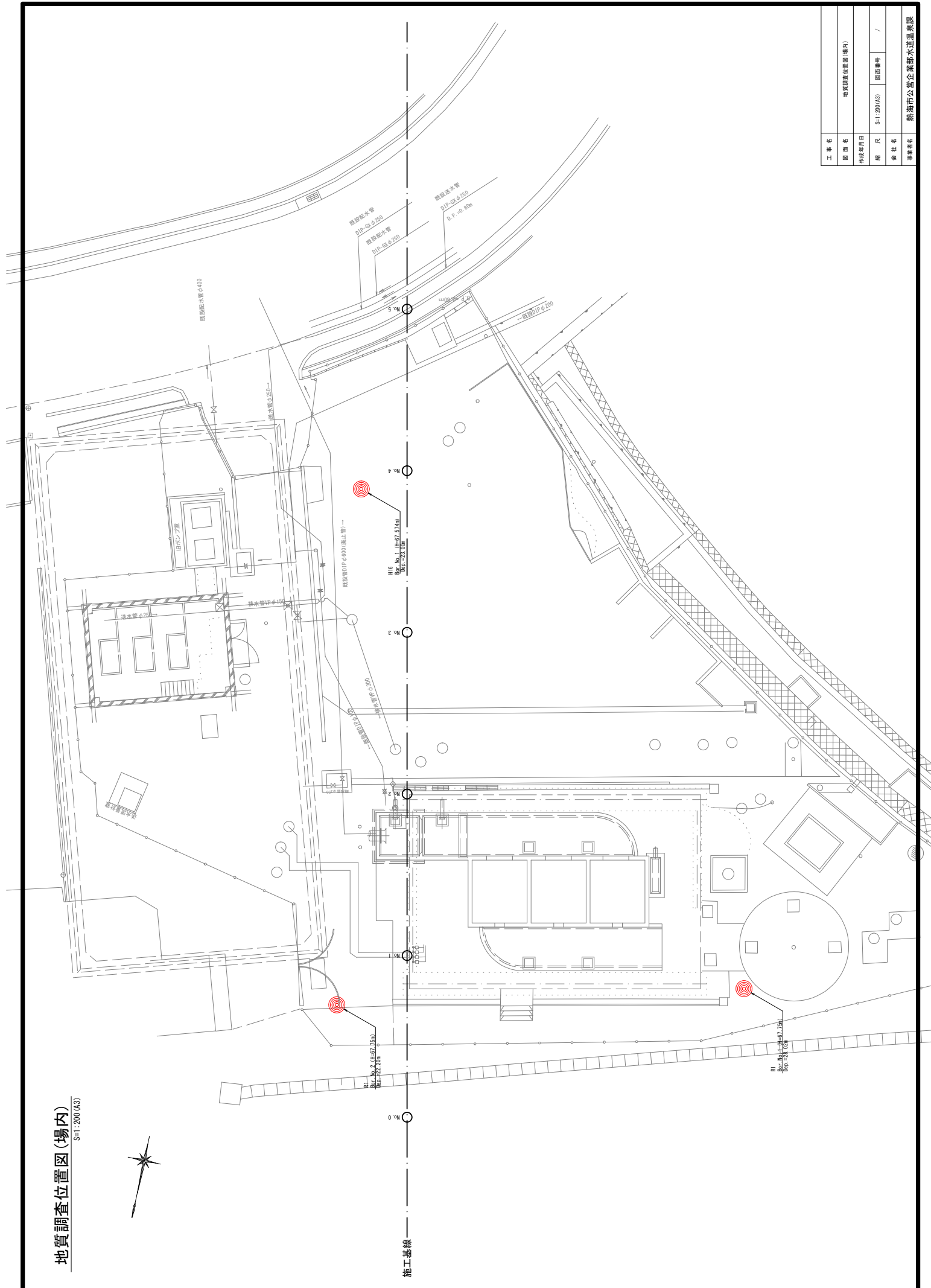
S-1/1,000(A3)



工事名	地質調査位置図(周辺)		
図面名			
作成年月日			
期尺	S-1/1,000 (A3)	図面番号	/
会社名	熱海市公営企業部水道課		
製図者名	熱海市公営企業部水道課		

地質調査位置図(場内)

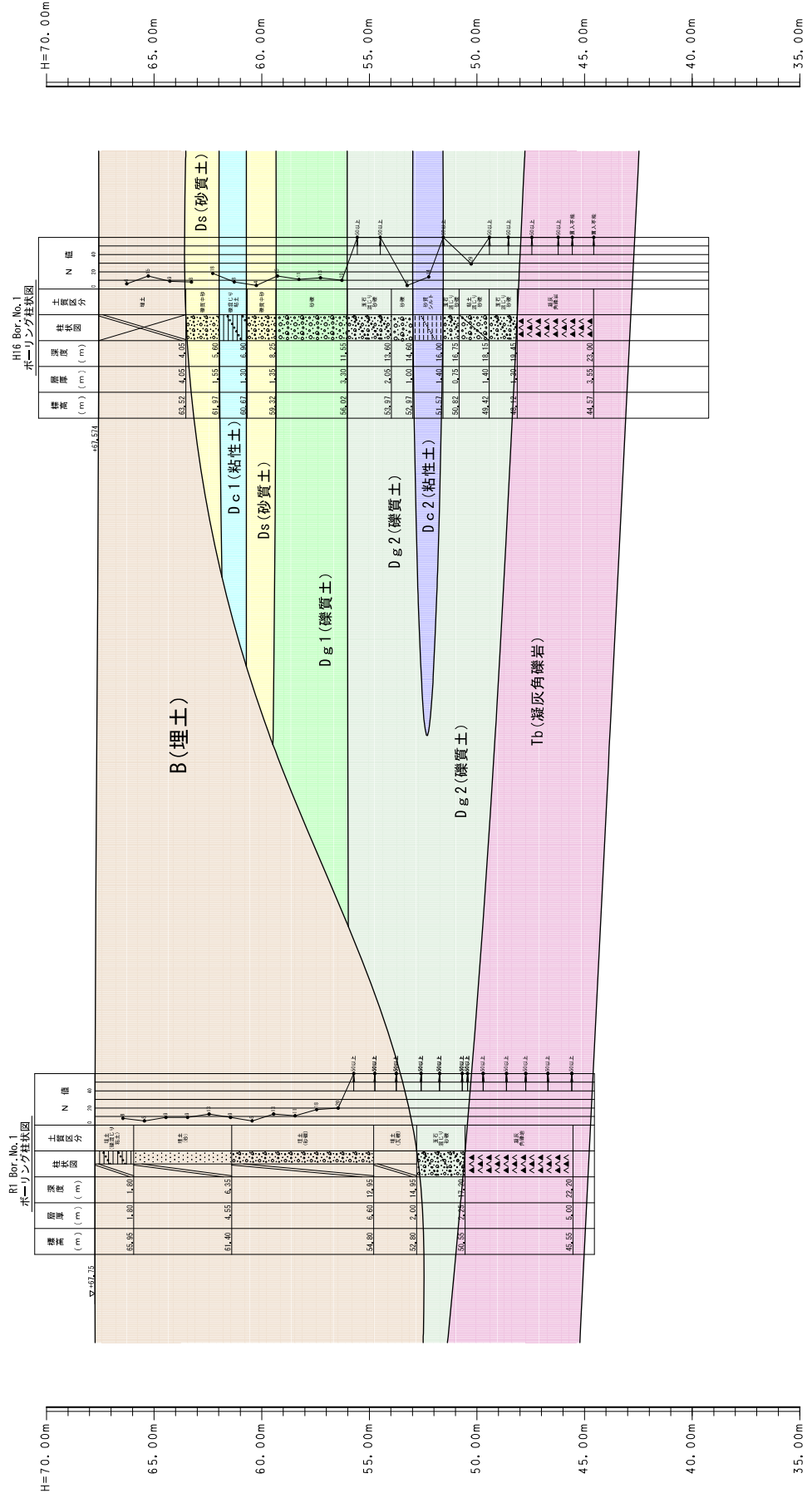
S=1:200(A3)



工事名	地質調査位置図(場内)		
図面名	地質調査位置図(場内)		
作成年月日	/ /		
期	S-1.200(A3)	図面番号	/
会社名	熱海市公営企業部水道課		
製作者名	熱海市公営企業部水道課		

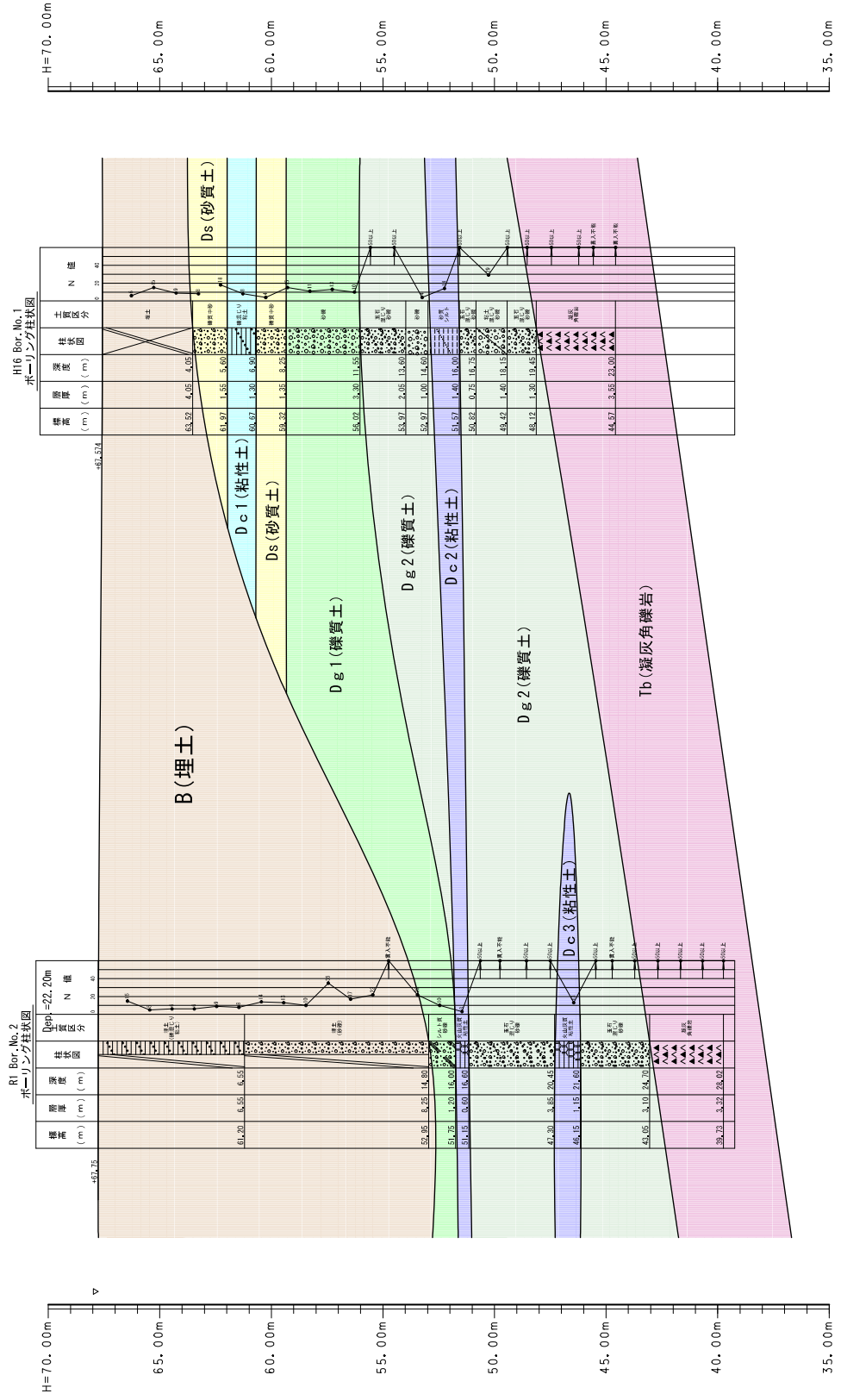
推定地質断面図

S = 1 : 200



推定地質断面図

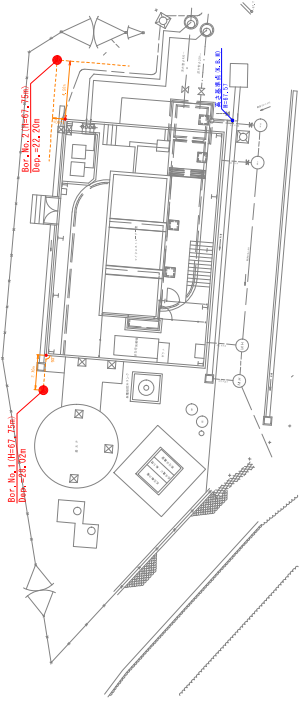
S = 1 : 200



凡例

地質名	記号	層厚 (m)	土質 (注)	N値 (CPT)	中心位置 地質名 (N, E)	標準貫入 値 (kg/cm ²)	地質係数 C (%)	地質係数 E _s (kg/cm ²)
硬土層 (砂)	Bc	0~13	砂	0	15	0	24	11,200
硬土層 (砂)	Bs	0~13	砂	0	19	21	0	19,000
硬土層 (砂)	Bg	0~20/0	砂	12	20	22	0	23,000
硬質土層	Bd	0~10	砂	10	19	28	0	28,000
粘性土層	Bv	3	粘土	0	14	0	21	8,100
粘性土層	Bw	13	粘土	13	15	0	100	36,000
硬質土層	Bx	0.23~0.9	粘土	0	20	35	0	100,000
軟弱土層	Atb	0.12~0.3	粘土	0	21	0	0	98,000

推定地質断面図
S = 1 : 200



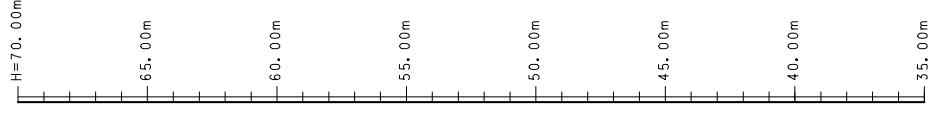
Bor. No. 1

H=67.75m
Dep.=22.20m



Bor. No. 2

H=67.75m
Dep.=28.02m



土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調 査 名 東宮浄水場整備工事基本設計業務委託

事 業 ・ 工 事 名

調査目的及び調査対象 上水道 構造物基礎

ボーリング名	Bot.No.2		調査位置	熱海市福道町地内		北 緯	35° 05' 54.2500"			
発注機関	熱海市			調査期間	令和元年12月 7日～ 令和元年12月14日		東 経	139° 03' 51.4900"		
調査業者名	株式会社大場上下水道設計 電 話 053-466-2100		主任技師	青島 崇徳 技師 登録番号		現場代理人	コ ア 鑑定 者 技師 登録番号		ボーリング責任者	秋本和也 技師登録番号 第13427号
孔口標高	H=67.75m		角			使用機種	試錐機 KR-100		エンジン	NFAD-9EK
総削孔長	28.02m		度	0°		ポンプ	V5			

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色 相 対 密 度 調 度 度	相 対 密 度 調 度 度	相 対 密 度 調 度 度	記 事	孔内水位 測定月日	標準貫入試験					試料採取		空 内 試 験	削 孔 月 日				
											深度-N 値 図					深 度 (m)	採 取 方 法						
1			暗茶褐						表面9cmコンクリート、以深0L-0.25mまでφ40mm以下の角～歪円礫を主体とする砂礫。		15	1.15	2	1	12	15	1.15	2-1	○				
2			暗茶褐						以深含水中ぐらい、粘性中ぐらいのローム質粘性土によるが、所々でφ20mm以下の角～歪円礫の混入がみられる。混入する礫は最大粒径として、L=70mm。また、所々で砂分の多いところもみられる。		15	1.45					1.45						
3			茶褐		rc3						5	2.15	1	2	2	5	2.15	2-2	○				
4			暗灰褐						掘削時には20～30%/mの逸水がみられた。色調は暗茶褐～茶褐～暗赤灰～暗灰褐と変化に富んでいる。		5	2.45					2.45						
5			暗灰褐								6	3.15	2	3	1	6	3.15	2-3	○				
6			暗灰褐								6	3.45					3.45						
7			暗灰褐								6	4.15	2	2	2	6	4.15	2-4	○				
8			暗灰褐								6	4.45					4.45						
9			暗灰褐								9	5.15	3	3	3	9	5.15	2-5	○				
10			暗灰褐						掘削時には20～30%/mの逸水がみられた。マトリックスは粘性土～砂によるが、不均質で、粘性土分の多いところ、砂分の多いところもみられる。掘削後L=50～70mm程度の塊は0L-8.8m以深、0L-12.85m以深にみられ、最大粒径はコア長にてL=200mm。		9	5.45					5.45						
11			暗灰褐		rd3						8	6.15	2	3	3	8	6.15	2-6	○				
12			暗赤灰						0L-8.8～9.0m間隙混じりシルト。0L-9.75～10.05m間、0L-11.9～12.1m間隙混じりローム。		8	6.45					6.45						
13			暗赤灰								14	7.15	4	5	5	14	7.15	2-7	○				
14			茶褐								14	7.45					7.45						
15			シルト質砂礫		rd3				φ30mm以下の角礫を主体とする砂礫。マトリックスは粘性土～砂によるが、不均質で、粘性土分の多いところ、砂分の多いところもみられる。掘削後L=50～70mm程度の塊は0L-8.8m以深、0L-12.85m以深にみられ、最大粒径はコア長にてL=200mm。		13	8.15	4	4	5	13	8.15	2-8	○				
16			暗赤灰								13	8.45					8.45						
17			暗赤灰		ra2						10	9.15	3	3	4	10	9.15	2-9	○				
18			暗赤灰						0L-16.35～16.45m間、炭化物・木炭による。		10	9.45					9.45						
19			暗赤灰		rd5						35	10.15	13	17	5	35	10.15	2-10	○				
20			暗赤灰								35	10.45					10.45						
21			茶褐								17	11.15	5	7	5	17	11.15	2-11	○				
22			茶褐								17	11.45					11.45						
23			赤茶褐		rd5						22	12.15	7	7	0	22	12.15	2-12	○				
24			赤茶褐								22	12.45					12.45						
25			赤茶褐								50	13.00	貫入不能	0	0	50	13.00	2-13	○				
26			赤茶褐								22	14.15	8	9	5	22	14.15	2-14	○				
27			赤茶褐								22	14.45					14.45						
28			赤茶褐								10	15.15	3	3	4	10	15.15	2-15	○				
29			赤茶褐								10	15.45					15.45						
30			赤茶褐								3	16.15	1	1	1	3	16.15	2-16	○				
31			赤茶褐								3	16.45					16.45						
32			赤茶褐								30	17.05	37	13	50	130	17.05	2-17	○				
33			赤茶褐								30	17.18					17.18						
34			赤茶褐								50	18.00	貫入不能	0	0	50	18.00	2-18	○				
35			赤茶褐								50	19.15					19.15						
36			赤茶褐								50	19.21					19.21						
37			赤茶褐								50	20.15	26	24	50	200	20.15	2-20	○				
38			赤茶褐								50	20.35					20.35						
39			赤茶褐								13	21.15	5	4	4	13	21.15	2-21	○				
40			赤茶褐								13	21.45					21.45						
41			赤茶褐								50	22.15	12	22	16	50	280	22.15	2-22	○			
42			赤茶褐								50	22.43					22.43						
43			赤茶褐								50	23.03	貫入不能	0	0	50	23.03	2-23	○				
44			赤茶褐								50	23.03					23.03						
45			赤茶褐								50	24.04	貫入不能	0	0	50	24.04	2-24	○				
46			赤茶褐								50	24.04					24.04						

ボーリング柱状図

調査名 来の宮配水池耐震診断業務委託

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 1	調査位置	静岡県熱海市福道町地内			北緯	
発注機関	熱海市公営企業部 水道温泉課		調査期間	平成 16年 10月 4日 ~ 16年 10月 13日		東経	
調査業者名	株式会社日本水道設計社 電話 (03-3292-8435)	主任技師	伊東 義和	現代理人	小笠原 邦夫 コ鑑定者	伊東 義和	ボーリング責任者 松田 雅弘
孔口標高	H=67.574m	角	180° 上 90° 下	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	23.00m	度		使用機種	試錐機 YBM-05DA-2	ハンマー落下用具	半自動落下装置
				エンジン	KUBOTA EA10-V		ポンプ YBM GP-5

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色相対密度	相対稠度	相対稠度	記 事	標準貫入試験					原位置試験 深 度 (m)	試験名 および結果	試料採取 深 度 (m)	採取 番号	室内試験 採 取 方 法	掘 進 月 日	
									深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数	0	10	20							打撃回数 / 貫入量 (cm)
1				埋土	褐 暗 褐 灰	中 位	中 位	0.00~0.40m径φ100mm位の玉石多量混入	1.15	2	2	2	6							
2								所々、アスファルト片混入 互層状にローム、礫混じり粘土挟む 礫は径φ30~40mmの亜円礫 下部は中砂多量混入	1.47	3	6	6	15							
3									3.15	4	2	3	9							
4	63.52	4.05	4.05		礫質中砂	暗 褐	緩 い 中 位	礫は径φ5~15mmの亜円礫 最大粒径φ30~50mm位 含水量少ない 全体に赤色を帯び、スコリア質である	3.46	3	2	3	8							
5	61.97	1.55	5.60		礫混じり粘土	黄 褐	中 位	礫は径φ2~5mmの亜円礫 径φ10mmの風化礫混入 細砂混入	4.15	3	2	3	8							
6	60.67	1.30	6.90		礫質中砂	暗 褐	非 常 に 緩 い 中 位	礫は径φ5~15mm(最大粒径φ30mm)の亜円礫 礫下部粘土多量混入 層状に赤色を帯び、スコリア質である	4.46	5	7	6	18							
7	59.32	1.35	8.25		砂礫	暗 褐 赤 褐	緩 い 中 位	径φ4~10mmの亜円礫主体 上部は径φ30~40mmの亜円礫多量混入 所により赤色を帯びる 全体にスコリア質である	5.15	5	7	6	18							
8	56.02	3.30	11.55		砂礫	暗 褐 赤 褐	緩 い 中 位	8.60m付近は100mm位の玉石混入 10.00m付近は黄褐色粘土多量混入 10.20m付近は赤褐色を呈する	5.45	3	2	3	9							
9					玉石混じり砂礫	暗 灰	非 常 に 密	全体に径φ100~150mmの玉石多量混入 12.00m付近より径φ200~300mm玉石多量混入 逸水あり 13.00m付近より径φ100mm位玉石主体	6.15	3	2	3	9							
10					砂礫	暗 灰	非 常 に 緩 い	全体に軽石質 礫径φ5~15mmの亜円礫主体 砂は中砂 シルト多量混入	6.45	5	7	6	18							
11					砂質シルト	褐 暗 褐	緩 い	砂は細砂~中砂 所々、径φ10~50mmの亜円~亜角礫混入	7.15	2	2	1	5							
12	53.97	2.05	13.60		玉石混じり砂礫	暗 灰	非 常 に 密	玉石は径φ80~150mm 最大玉石径φ250mm位	7.49	11	13	11	34							
13	52.97	1.00	14.60		粘土混じり砂礫	暗 褐	中 位	径φ10mm位の円~亜角礫主体 最大粒径φ20mm位 18.10m付近は径φ100mm位の玉石混入	8.15	7	4	4	15							
14	51.57	1.40	16.00		玉石混じり砂礫	暗 灰	非 常 に 密	径φ100~200mmの玉石多量混入 マトリックスは粘土	8.45	5	3	3	11							
15	50.82	0.75	16.75		凝灰角礫岩	灰	特 別 に 緩 い	20.00~20.15m風化激しく土砂状を呈す 20.15~20.30mコアは棒状呈すが風化著しい 20.30m付近よりクラック発達 21.00~22.00m棒状呈す	9.15	5	3	3	11							
16	49.42	1.40	18.10						9.45	5	4	4	13							
17	48.12	1.30	19.40						10.15	5	4	4	13							
18	44.57	3.55	23.00						10.45	4	3	3	10							
19									10.7	50			50							
20									10.9	50			50							
21									11.45	50			50							
22									12.00	2			2							
23									12.02	50			50							
24									13.05	5			5							
25									13.10	50			50							

ボーリング柱状図

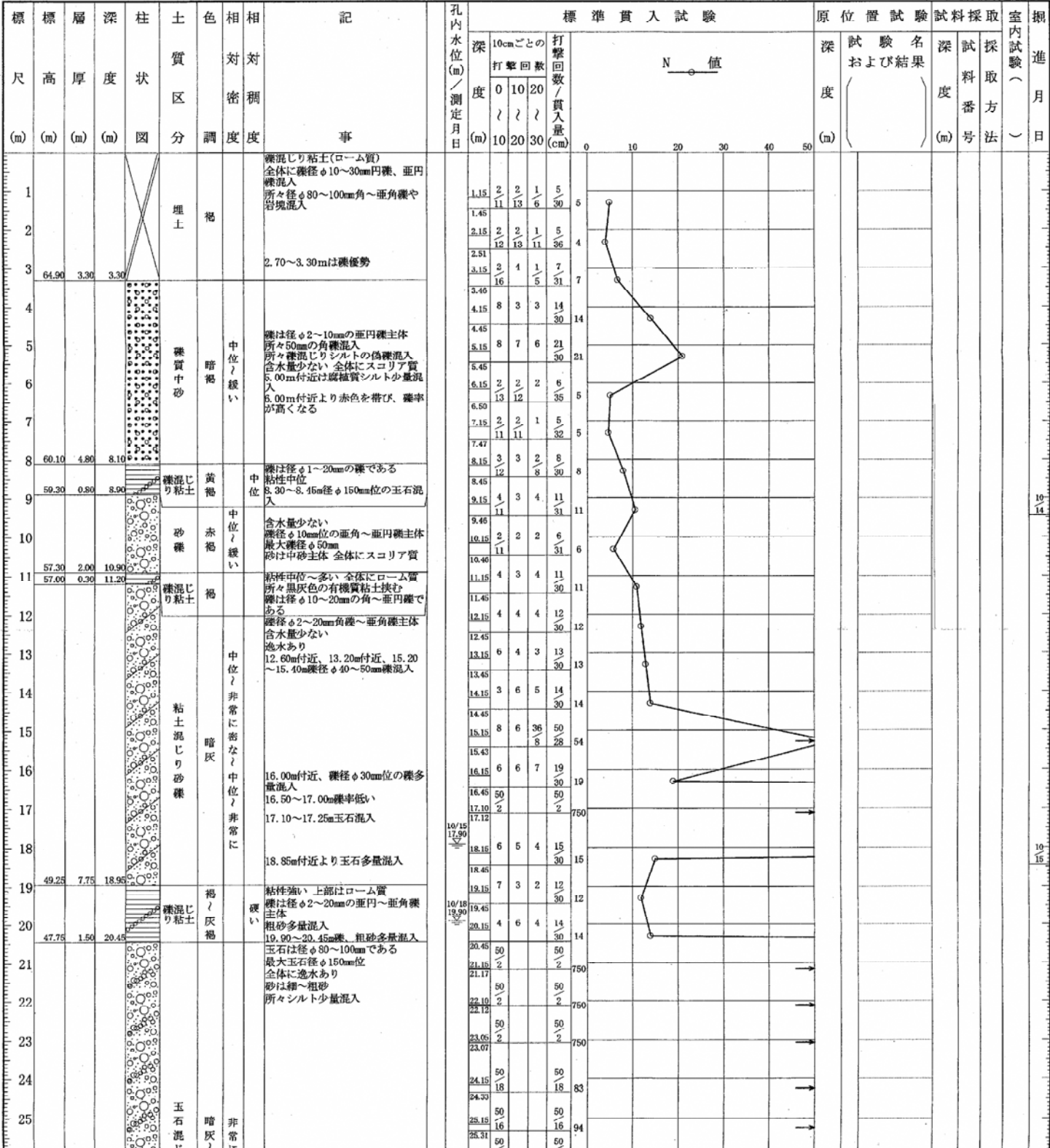
調査名 来の宮配水池耐震診断業務委託

ボーリング№

事業・工事名

シート№

ボーリング名	No. 2		調査位置	静岡県熱海市福道町地内			北緯						
発注機関	熱海市公営企業部 水道温泉課			調査期間	平成 16年 10月 16日 ~ 19年 月 日		東経						
調査業者名	株式会社日本水道設計社 電話 (03-3292-8435)		主任技師	伊東 義和		現場代理人	小笠原 邦夫	コピ定者	伊東 義和				
ボーリング責任者	松田 雅弘												
孔口標高	68.200m	角	180°上	90°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	YBM-05DA-2	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	31.08m	度							エンジン	KUBOTA EA10-V	ポンプ	YBM GP-5	



発注機関	熱海市公営企業部 水道温泉課			調査期間	平成 16年 10月 16日 ~ 19年 月 日		東 経				
調査業者名	株式会社日本水道設計社 電話 (03-3292-8435)		主任技師	伊東 義和	現代 場人	小笠原 邦夫	コ 鑑 定 者	伊東 義和	ボ-リング 責任者	松田 雅弘	
孔口標高	H= 68.200m	角	180° 上 90° 下	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	鉛直 0° 水平 0°	使用機種	YBM-05DA-2	ハンマー 落下用具	半自動落下装置
総掘進長	31.08m	度		向		エンジン	KUBOTA EA10-V	ポンプ	YBM GP-5		

標尺 (m)	層厚 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	土 質 区 分	色 調	相 対 密 度	相 対 稠 度	記 事	標準貫入試験				原位置試験		試験採取 深 度 (m)	採取 方法	室内試験 ()	掘 進 月 日	
									深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数	打撃回数/ 貫入量 (cm)	N 値	深 度 (m)	試験名 および結果					
1				埋土	褐			礫混じり粘土(ローム質) 全体に礫径φ10~30mm円礫、亜円礫混入 所々径φ80~100mm角~亜角礫や 岩地混入	1.15	2	2	1	5						
2								2.70~3.30mは礫優勢	1.45	11	13	6	30						
3	64.90	3.30	3.30						2.16	2	2	1	5						
4				礫質中砂	暗褐		中位~緩い	礫は径φ2~10mmの亜円礫主体 所々50mmの角礫混入 所々礫混じりシルトの偽礫混入 含水量少ない 全体にスコリア質 5.00m付近は礫質シルト少量混入 6.00m付近より赤色を帯び、礫率 が高くなる	2.51	12	13	11	36						
5									3.15	2	4	1	7						
6									3.46	16	4	1	5						
7									3.46	8	3	3	14						
8	60.10	4.80	8.10						4.15	8	3	3	30						
9				礫混じり粘土	黄褐		中位	礫は径φ1~20mmの礫である 粘性中位 8.30~8.45m径φ150mm位の玉石混入	4.45	8	7	6	21						
10	59.30	0.80	8.90						5.15	8	7	6	21						
11				砂礫	赤褐		中位~緩い	含水量少ない 礫径φ10mm位の亜角~亜円礫主体 最大礫径φ50mm 砂は中砂主体 全体にスコリア質	5.45	8	7	6	21						
12	57.30	2.00	10.90						6.15	2	2	2	6						
13	57.00	0.30	11.20						6.50	13	12	2	35						
14				礫混じり粘土	褐		中位	粘性中位~多い 全体にローム質 所々黒灰色の有機質粘土挟む 礫は径φ10~20mmの角~亜円礫である	7.15	2	2	1	5						
15									7.47	11	11	2	32						
16				粘土混じり砂礫	暗灰		中位~非常に密な 中位~非常に	礫径φ2~20mm角礫~亜角礫主体 含水量少ない 逸水あり 12.60m付近、13.20m付近、15.20 ~15.40m礫径φ40~50mm礫混入	8.15	3	3	2	8						
17								16.00m付近、礫径φ30mm位の礫多 量混入 16.50~17.00m礫率低い 17.10~17.25m玉石混入	8.45	12	3	2	8						
18								18.85m付近より玉石多量混入	9.15	4	3	4	11						
19	49.25	7.75	18.95						9.46	11	4	3	31						
20				礫混じり粘土	褐		硬い	粘性強い 上部はローム質 礫は径φ2~20mmの亜円~亜角礫 主体 粗砂多量混入 19.90~20.45m礫、粗砂多量混入 玉石は径φ80~100mmである 最大玉石径φ150mm位 全体に逸水あり 砂は細~粗砂 所々シルト少量混入	10.15	2	2	2	6						
21	47.75	1.50	20.45						10.46	11	4	3	31						
22									10.46	11	4	3	31						
23									11.15	4	3	4	11						
24				玉石混じり砂礫	暗灰~褐灰		非常に密な		11.45	4	4	4	12						
25									12.15	4	4	4	12						
26									12.45	4	4	4	12						
27									13.15	6	4	3	13						
28									13.48	3	6	5	14						
29									14.15	3	6	5	14						
30									14.45	8	6	36	50						
31	37.12	10.63	31.08						15.15	8	6	36	50						
32									15.43	8	6	36	50						

ボーリング柱状図

調査名 来の宮配水池耐震診断業務委託

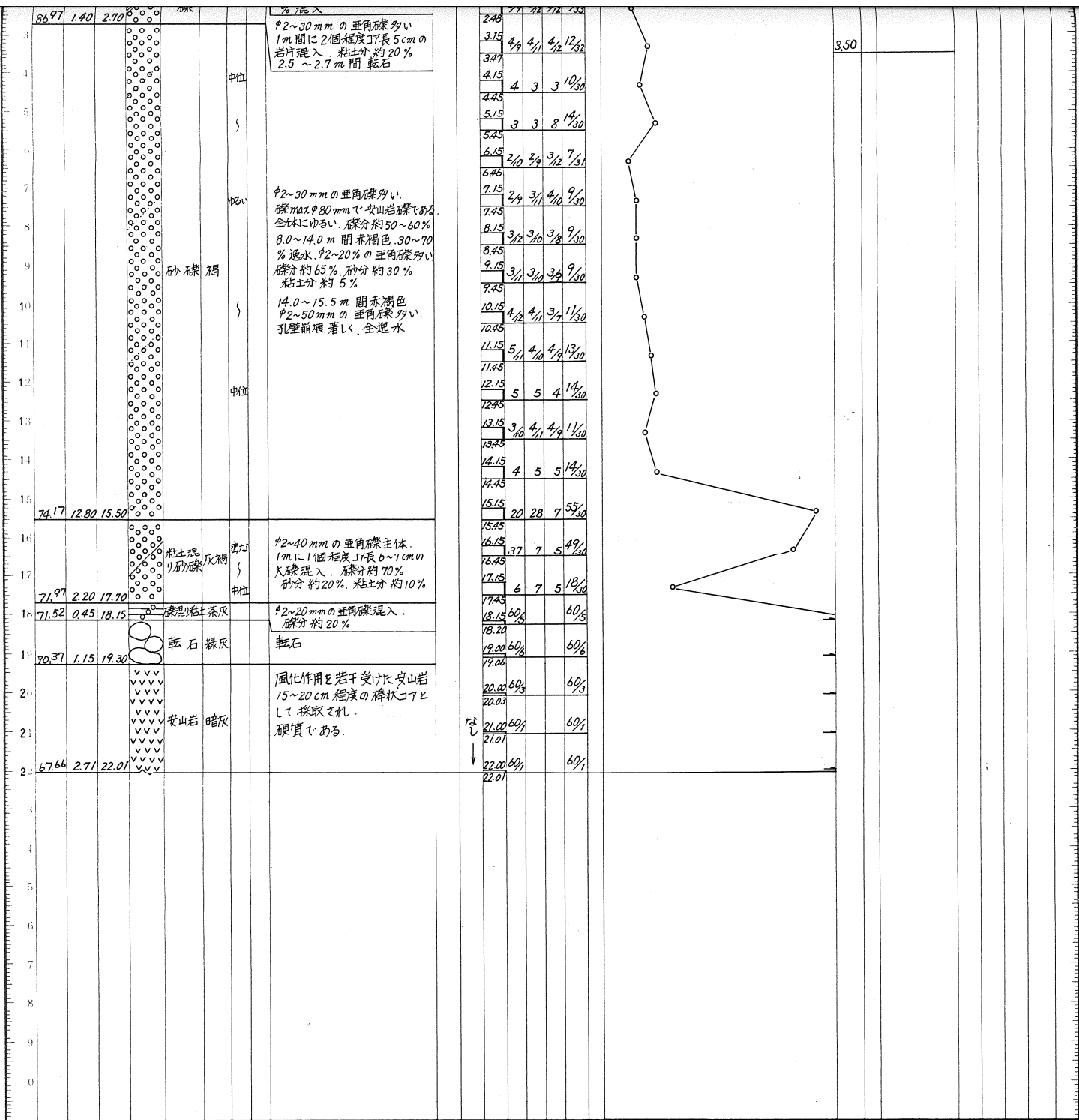
ボーリングNo.											
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No. 3		調査位置	静岡県熱海市福道町地内				北緯			
発注機関	熱海市公営企業部 水道温泉課			調査期間	平成 16年 10月 16日 ~ 16年 10月 22日			東経			
調査業者名	株式会社日本水道設計社 電話 (03-3292-8435)			主任技師	伊東 義和		現場代理人	小笠原 邦夫 コ鑑定者 伊東 義和		ボーリング責任者	松田 雅弘
孔口標高	H=59.541m	角	180°上 90° 0°下	方	北 0° 270°西 180°南 90°東	地盤勾配	鉛直 0° 水平 0°	使用機種	試錐機 YBM-05DA-2 エンジン KUBOTA EA10-V	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	20.00m		度							ポンプ	YBM GP-5

標尺 (m)	層高 (m)	厚 (m)	深 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験 深 (m)	試験名 および結果	試料採取 深 (m)	採取 方法	掘進 月日	
											深 (m)	10cmごとの打撃回数 / 貫入量 (cm)								N 値
												0	10	20						
1	57.74	1.80	1.80		表土	暗褐	硬い	硬い	凝結り腐植質粘土主体 径φ5~50mmの亜円~亜角礫混入 0.30m付近より細砂~中砂混入 1.00m付近は赤褐色 中砂多量混入 1.40m付近より礫多量混入	10/19 7.56	1.15	5	5	4	14					
2					礫質細砂	暗褐	緩い	緩い	含水量少ない 全体にスコリア質 礫は径φ5~30mmの亜角礫 下部は特に礫率高い		1.45	1	2	2	5					
3	55.94	1.80	3.60						含水量少ない 全体にスコリア質 礫径φ5~80mm亜角~角礫主体 砂は細砂~中砂 径φ2mm位亜円礫混入 5.00m付近より崩壊著しい		2.15	3	3	3	9					
4									含水量少ない 全体にスコリア質 礫径φ5~80mm亜角~角礫主体 砂は細砂~中砂 径φ2mm位亜円礫混入 5.00m付近より崩壊著しい		2.45	3	3	3	9					
5									含水量少ない 全体にスコリア質 礫径φ5~80mm亜角~角礫主体 砂は細砂~中砂 径φ2mm位亜円礫混入 5.00m付近より崩壊著しい		3.15	2	1	1	4					
6									含水量少ない 全体にスコリア質 礫径φ5~80mm亜角~角礫主体 砂は細砂~中砂 径φ2mm位亜円礫混入 5.00m付近より崩壊著しい		3.45	2	3	2	7					
7									6.30m付近より炭水 5.00~7.00m径φ50~70mm礫主体 最大礫径φ120mm位 下部は黄褐色粘土少量混入		4.15	2	3	2	7					
8	50.94	5.00	8.60						6.30m付近より炭水 5.00~7.00m径φ50~70mm礫主体 最大礫径φ120mm位 下部は黄褐色粘土少量混入		4.45	2	2	2	6					
9									6.30m付近より炭水 5.00~7.00m径φ50~70mm礫主体 最大礫径φ120mm位 下部は黄褐色粘土少量混入		5.15	2	2	2	6					
10	48.99	1.95	10.55		粘土混じり砂			中位~密な	径φ2~20mm亜円礫主体 最大礫径φ30mm位 粘性強い		5.45	2	2	2	6					
11									径φ2~20mm亜円礫主体 最大礫径φ30mm位 粘性強い		6.15	2	2	2	6					
12									径φ2~20mm亜円礫主体 最大礫径φ30mm位 粘性強い		6.45	50	8		50					
13	46.14	2.85	13.40		玉石混じり砂			非常に密な	玉石径φ80mm位玉石多量混入 砂は中砂及び粗砂 粘性強い 礫径φ2~30mm円礫、亜角礫主体 12.25~12.50m棒状コアになる		7.15	11	39	8	50					
14									玉石径φ80mm位玉石多量混入 砂は中砂及び粗砂 粘性強い 礫径φ2~30mm円礫、亜角礫主体 12.25~12.50m棒状コアになる		7.23	8			50					
15									玉石径φ80mm位玉石多量混入 砂は中砂及び粗砂 粘性強い 礫径φ2~30mm円礫、亜角礫主体 12.25~12.50m棒状コアになる		8.15	11	39	8	50					
16	42.74	3.40	16.80		粘土混じり砂			密な~非常に密な	径φ20mm位の礫主体 最大礫径φ50~60mm 色調変化著しい 全体に淘汰が非常に悪い		8.33	8	10	11	29					
17									径φ20mm位の礫主体 最大礫径φ50~60mm 色調変化著しい 全体に淘汰が非常に悪い		9.15	8	10	11	29					
18									径φ20mm位の礫主体 最大礫径φ50~60mm 色調変化著しい 全体に淘汰が非常に悪い		9.45	10	8	23	41					
19									径φ20mm位の礫主体 最大礫径φ50~60mm 色調変化著しい 全体に淘汰が非常に悪い		10.15	10	8	23	41					
20	39.54	3.20	20.00		凝灰角礫岩			特別に硬い	16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		10.45	13	37	3	50					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		11.15	50			50					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		11.28	50			50					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		12.15	50			50					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		12.25	50			50					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		13.05	7			50					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		13.12	10	11	11	32					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		14.15	50			50					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		14.45	50			50					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		15.05	1			1					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		15.06	10	8	12	30					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		16.15	10	8	12	30					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		16.45	17	21	12	50					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		17.15	14	36	9	50					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		17.42	18	15		19					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		18.15	50			50					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		18.34	50			50					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		19.05	6			6					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		19.11				50					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		20.00				50					
									16.80~19.35m風化著しく土砂状を呈する 16.80~17.65mは特に風化著しく粘土化所々にクラック発達		20.00				0					



〈凡例〉

柱状図および土質区分

第1分類

区分	分類名	図様
土質	礫 (G)	○
	礫質 (HGF)	○●
	砂 (S)	●
	砂質土 (SF)	●●
	シルト (M)	---
	粘性土 (C)	—
	有機質土 (O)	■
	火山灰質粘性土 (V)	▲
高有機質土(腐植土) (PO)	▲	

第2分類

区分	分類名	図様
土質	砂質 (S)	●
	シルト質 (M)	---
	粘土質 (C)	—
	有機質 (O)	■
	火山灰質 (V)	▲
	土石混り (-B)	○●
	砂利、礫混り (-G)	●●
	砂混り (-S)	●
	シルト混り (-M)	---
	粘土混り (-C)	—
土質	有機質土混り (-O)	■
	火山灰混り (-V)	▲
	貝殻混り (-Sh)	○
	その他	○

第3分類

区分	分類名	図様
岩石	硬岩 (HR)	
	中硬岩 (MR)	
	軟岩、風化岩 (WR)	
土質	長石 (B)	○
	浮石 (軽石) (Pm)	△
	特殊	▲
	スコリア (Sc)	▲
	火山灰 (VA)	▲
	ローム (Lm)	▲
	黒ボク (Kb)	▲
	マサ (WG)	▲
	表土 (Ss)	▲
	埋土 (Ff)	▲
廃棄物 (W)	▲	

試料採取方法

- ① シンウォールサンプラーによる
- ② デニソンサンプラーによる
- ③ 貫入試験器による
- ④ フォイルサンプラーによる
- ⑤ () による

備考

ボーリング柱状図

JACIC 様式 Ge 201

調 査 名 2 - 静岡県地方務局熱海出張所敷地調査業務

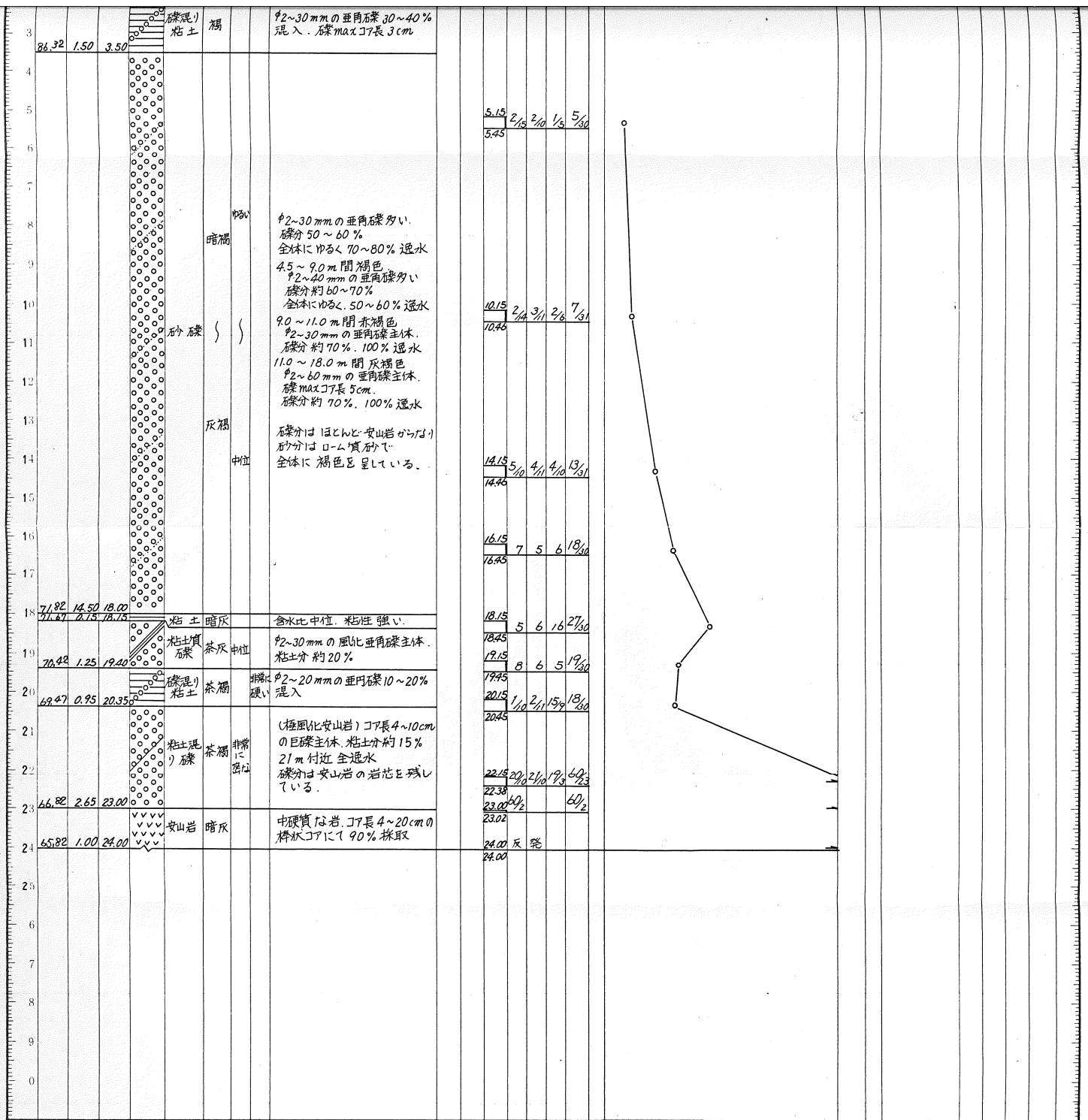
ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	NO.3		調査位置	熱海市 福道町 700 - 27 外			北 緯		
発注機関	静岡県営工事事務所			調査期間			東 経		
調査業者名	東名開発株式会社 電話 (0542-82-0551)		主任技師	中野 強一郎		現代 場 代理人	松橋 利正	コ 鑑 定 者	
ボーリング責任者	松橋 利正								
孔口標高	89.82m	角			地盤勾配	鉛直 90°	使用機種	試験機 KR-50	ハンマー落下用具
総掘進長	24.00m	度			エンジン	F-7	ポンプ	V-5	

標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色相対密度	相対稠度	記 事	標準貫入試験					原位置試験	試料採取	室内試験	掘進月日	
								深 (m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数/貫入量 (cm)	N 値						
88.82	1.00	1.00		砂礫	暗褐色		φ2-10mmの亜角礫主体 0.6mから赤褐色 アスファルト片混入										
87.82	1.00	2.00		粘土質礫	黄灰		φ2-50mmの亜角礫主体。 礫maxコア長5cm 粘土分 約 30%										
86.32	1.50	3.50		礫混り粘土	褐		φ2-30mmの亜角礫 30~40% 混入。礫maxコア長3cm										
				砂礫	暗褐色		φ2-30mmの亜角礫多し。 礫分 50~60% 全体にゆるく 70~80% 透水 4.5~9.0m間褐色 φ2-40mmの亜角礫多し 礫分 約 60~70% 全体にゆるく 50~60% 透水 9.0~11.0m間赤褐色 φ2-30mmの亜角礫主体。 礫分 約 70%。100% 透水 11.0~18.0m間灰褐色 φ2-60mmの亜角礫主体。 礫maxコア長5cm。 礫分 約 70%。100% 透水	5.15 5.45	2/15 2/10	2/10 1/5	5/30						
				砂礫	暗褐色		礫分はほとんど安山岩の破片 砂分はローム質砂で 全体に褐色を呈している。	10.15 10.45	2/14	3/11	2/6	7/31					
				砂礫	暗褐色		礫分はほとんど安山岩の破片 砂分はローム質砂で 全体に褐色を呈している。	14.15 14.45	5/20	4/11	4/10	13/31					
				砂礫	暗褐色		礫分はほとんど安山岩の破片 砂分はローム質砂で 全体に褐色を呈している。	16.15 16.45	7	5	6	18/30					
71.82	14.50	18.00		粘土質礫	暗灰		含水比中位。粘性強い。	18.15	5	6	16	27/30					
70.42	1.25	19.40		粘土質礫	茶灰	中位	φ2-30mmの風化亜角礫主体。 粘土分 約 20%	18.45 19.15	8	6	5	19/30					
69.47	0.95	20.35		礫混り粘土	茶褐色	非常に硬い	φ2-20mmの亜角礫 10~20% 混入	19.45 20.15	1/10	2/11	15/9	18/30					
				砂礫	茶褐色	非常に硬い	(極風化安山岩) コア長4~10cm の巨礫主体。粘土分約 15% 21m付近全透水 礫分は安山岩の岩芯を残している。	20.45									
66.82	2.65	23.00		砂礫	茶褐色	非常に硬い	(極風化安山岩) コア長4~10cm の巨礫主体。粘土分約 15% 21m付近全透水 礫分は安山岩の岩芯を残している。	22.15 22.35 23.00	20	2/10	19/3	60/23					
65.82	1.00	24.00		安山岩	暗灰		中硬質な岩。コア長4~20cmの 片状コアにて 90% 採取	23.02 24.00									



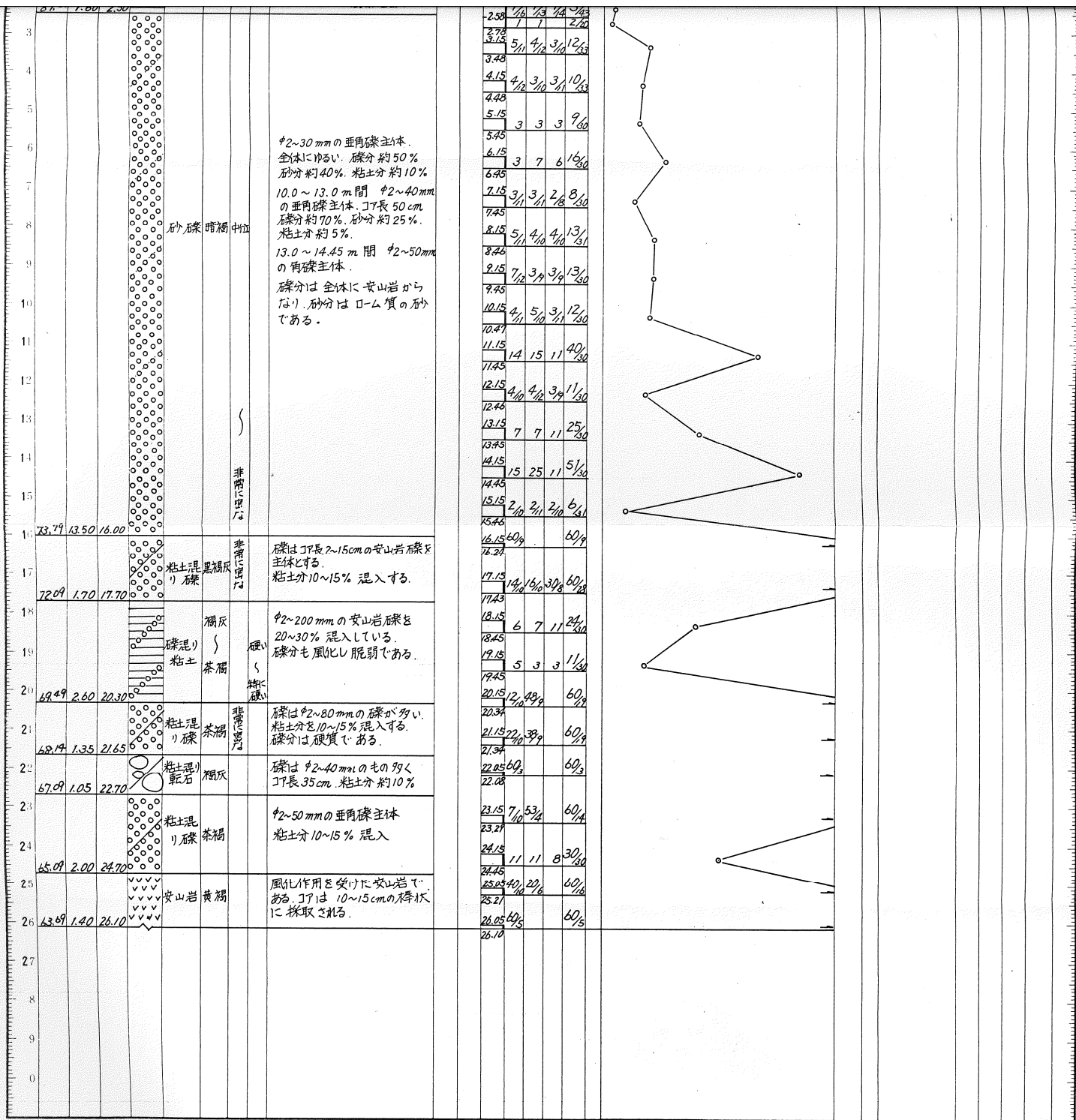
〈凡例〉
柱状図および土質区分

第1分類			第2分類			第3分類				
区分	分類名	図模様	区分	分類名	図模様	区分	分類名	図模様		
土質材料	礫 (G)	○	補助記号	砂質 (S)	○	岩石材料	硬岩 (HR)			
	礫質土 (GF)	○		シルト質 (M)	○		土質材料	中硬岩 (MR)		
	砂 (S)	○		粘土質 (C)	○			特殊土	軟岩・風化岩 (WR)	
	砂質土 (SF)	○		有機質 (O)	○				土質材料	浮石 (軽石) (Pm)
	シルト (M)	○		火山灰質 (V)	○			シラス (Si)		△△△
	粘性土 (C)	○		玉石混り (-B)	○		スコリア (Sc)	△△△		
	有機質土 (O)	○		砂利・礫混り (-G)	○		火山灰 (VA)	△△△		
	火山灰質粘性土 (V)	○		砂混り (-S)	○		ローム (Lm)	△△△		
	高有機質土 (腐植土) (PO)	○		シルト混り (-M)	○		黒ボク (Kb)	△△△		
				粘土混り (-C)	○		マサ (WG)	△△△		
		有機質土混り (-O)	○	表土 (Ss)	△△△					
		火山灰混り (-V)	○	埋土 (FI)	△△△					
		貝殻混り (-Sh)	○	廃棄物 (W)	△△△					

試料採取方法

- ① シンウォールサンブラーによる
- ② デニソンサンブラーによる
- ③ 貫入試験器による
- ④ フォイルサンブラーによる
- ⑤ ()による

備考



〈凡例〉

柱状図および土質区分

第1分類

区分	分類名	図様
土質	礫 (G)	○
	礫質土 (GF)	○
	砂 (S)	●
	砂質土 (SF)	●
	シルト (M)	---
材料	粘性土 (C)	—
	有機質土 (O)	■
	火山灰質粘性土 (V)	~
	高有機質土(腐植土) (PO)	▽

第2分類

区分	分類名	図様
補助	砂質土 (S)	○
	シルト質土 (M)	---
	粘土質土 (C)	—
	有機質土 (O)	■
	火山灰質土 (V)	~
	玉石混り (-B)	○
	砂利、礫混り (-G)	●
	砂混り (-S)	●
	シルト混り (-M)	---
	粘土混り (-C)	—
別	有機質土混り (-O)	■
	火山灰混り (-V)	~
	貝殻混り (-Sh)	○

第3分類

区分	分類名	図様
岩石	硬岩 (HR)	
	中硬岩 (MR)	
	軟岩、風化岩 (WR)	
	玉石 (B)	○
特殊	浮石(軽石) (Pm)	△
	シラス (Si)	△
	スコリア (Sc)	▲
	火山灰 (VA)	~
材料	ローム (Lm)	▽
	黒ボク (Kb)	■
	ワサ (WG)	●
表土 (Ss)	—	
埋土 (FI)	—	
廃棄物 (W)	—	

試料採取方法

- ① シンウォールサンブラーによる
- ② デンソンサンブラーによる
- ③ 貫入試験器による
- ④ フォイルサンブラーによる
- ⑤ ()による

備考